

株主のみなさまへ

第27期中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日

株式会社トランスジェニックグループ

証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主の皆様へ

ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第27期中間事業報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

当社は、グループ再編の完結ステージとして2024年10月1日に(株)新薬リサーチセンターと(株)安評センターを経営統合し、創薬支援事業会社(株)トランスジェニック」とし、当社の純粋持株会社としての位置付けを明確にするため、商号を「(株)トランスジェニックグループ」と変更いたしました。

なお、当第2四半期及び通期の連結決算業績予想にてご説明いたしますが、当社グループを取り巻く外部環境及び足元の業績動向を精査した結果、誠に遺憾ながら前回発表予想から下方修正させていただくこととなりました。また、配当予想につきましても、通期連結業績予想を踏まえ、無配とさせていただきますことを、深くお詫び申し上げます。

このような結果を真摯に受け止め、グループ一丸となり、株主の皆様にご安心いただけるよう、結果を出せるグループ体制を早急に構築し、中長期にわたる企業価値向上を目指す所存でございます。

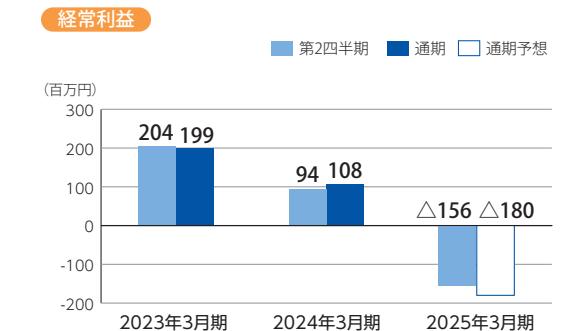
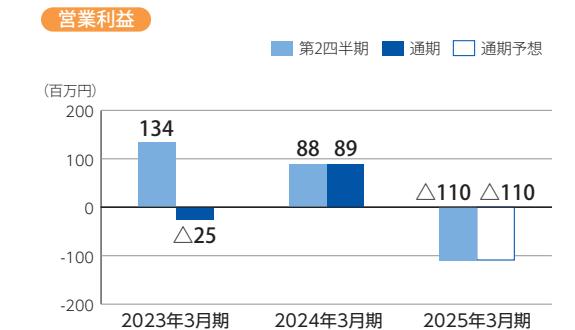
株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年12月
代表取締役社長 福永健司

当中間連結会計期間における我が国経済は、インバウンド需要や個人消費の回復基調は見られましたが、円安の急速な進行やエネルギー・原材料価格の高騰が継続しており、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。このような中、創薬支援事業は、(株)安評センターにおいて、高付加価値・差別化可能な試験の獲得に注力し、中期発がん性試験等の新規サービスの受注は増加しましたが、試験完了予定が来期以降となる試験が多く、遺伝子改変マウス受託作製等のサービスについても、主たる顧客であるアカデミアの研究者に対する国家予算縮小傾向の中で想定通りの受注を獲得することができず、売上高は前年同期比で減少いたしました。また、(株)新薬リサーチセンターにおいても、臨床試験の受注は好調に推移しましたが、当上半期完了予定の試験が想定より少なかったため前年同期比で売上高が減少したほか、中央研究所(北海道恵庭市)の非臨床事業の(株)安評センターへの移管作業が完了せず、顧客依頼により保管していた試験資料の返却・移管作業、研究所設備の撤去作業等が当期も継続し、想定以上のコストが発生いたしました。なお、2024年10月1日に(株)新薬リサーチセンターと(株)安評センターは、経営資源集約を通じた更なる事業運営の合理化、競争力・営業力の強化を目的とした経営統合を実施いたしました。投資・コンサルティング事業は、物価上昇傾向の中で消費者の購買意欲が後退し、Eコマースによる小売販売が苦戦しましたが、2024年4月に連結子会社化した東北新和化学(株)の売上貢献により前年同期比で増収となりました。しかし、円安の急速な進行により、輸入調達が基盤となるグループ会社の利益率は低下いたしました。

これらの結果、当中間連結会計期間における当社の売上高は、6,311百万円(前年同期比1.0%減)となり、営業利益につきましては110百万円の損失(前年同期は88百万円の営業利益)となりました。経常利益につきましても、営業外収益11百万円及び買収関連費用等の営業外費用57百万円を計上した結果、156百万円の損失(前年同期は94百万円の経常利益)となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益につきましても、合併した子会社の退職金制度の導入に関わる退職給付費用等の特別損失38百万円、「法人税、住民税及び事業税」24百万円、法人税等調整額△34百万円(△は利益)及び非支配株主に帰属する中間純損失2百万円等を計上した結果、182百万円の損失(前年同期は48百万円の親会社株主に帰属する中間純利益)となりました。

◆業績の推移

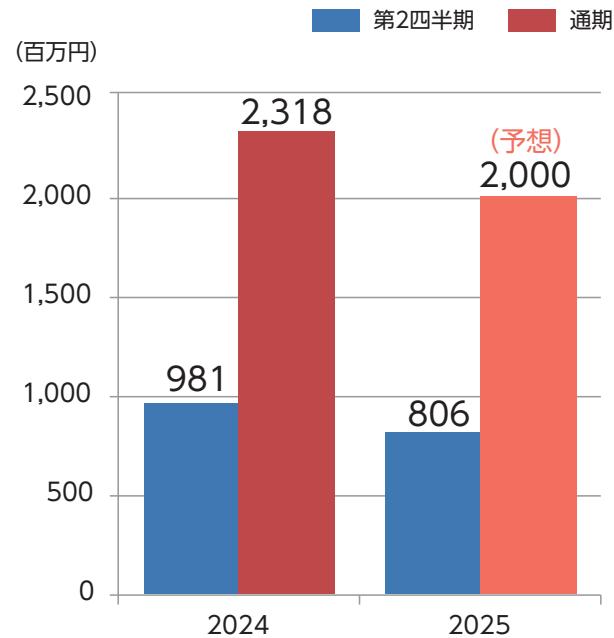


創薬支援事業

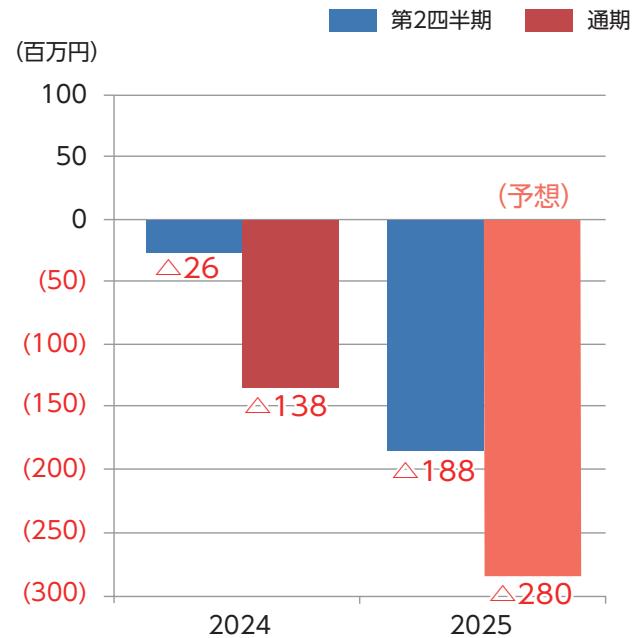
◆概要

創薬支援事業においては、高付加価値で差別化可能な非臨床試験、及び臨床試験の受注に注力した結果、当上期の受注高は前期比で増加しました。しかしながら、受注試験の大部分が下期以降納品の長期試験が多く、売上高に対する効果も限定的となった結果、前年同期比で減収となり営業損失額が拡大しました。

売上高



営業利益



●**非臨床試験**：当上期受注は、TGR試験の受注金額が前年同期比で大幅に減少(約△1.5億円)したことを受け繰越受注残とともに大幅に減少した。また、TGR試験以外の受注金額は中期発がん性試験の新規受注等で増加したが、大部分が下期以降納品であり、売上貢献は限定的となり減収となった。

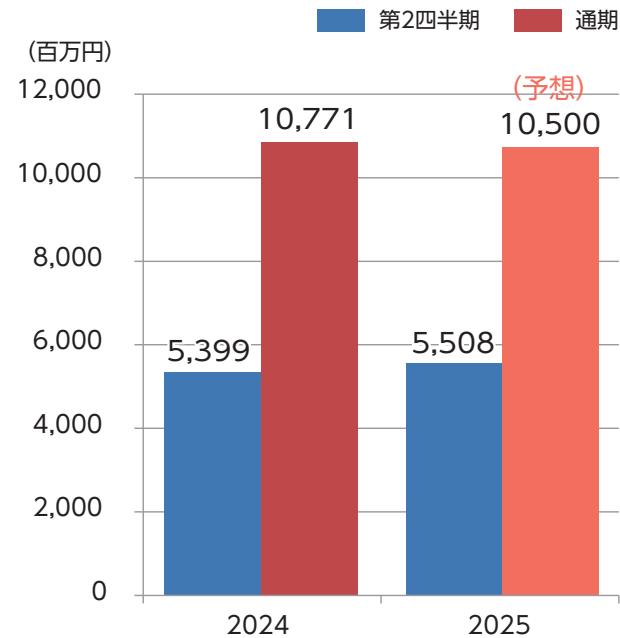
●**臨床試験**：当上期受注及び繰越受注残は、前年同期比で大幅に増加したが、大部分が下期以降納品であり、売上貢献は限定的となり減収となった。

投資・コンサルティング事業

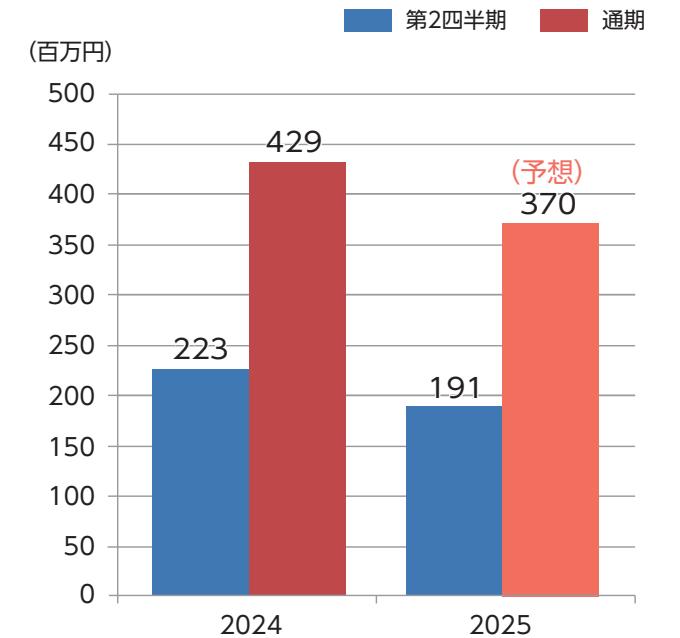
◆概要

投資・コンサルティング事業においては、当上期に連結子会社化した東北新和化学(株)の売上貢献があり、前年同期比で増収となりました。しかしながら、急速な円安の進行に伴う仕入コストの上昇に対応して価格転嫁の動きを進めるものの、その効果が生じるまでのタイムラグがあり、輸入調達が基盤となるグループ会社の利益率が低下し、営業利益は減益となりました。

売上高



営業利益



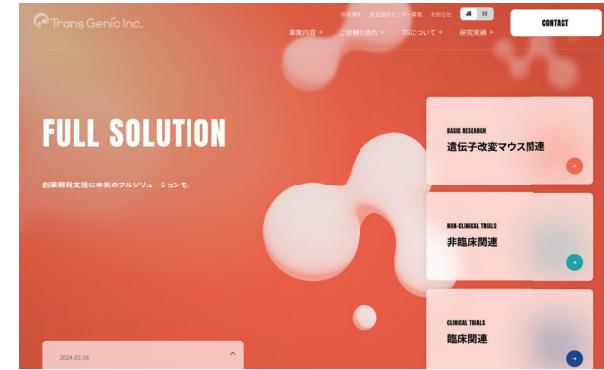
●**EC**：円安等を起因とする物価高を背景とした消費者の購買意欲後退により、当上期の売上高は減収となったが、在庫管理・粗利管理の徹底により営業利益については増益となった。

●**商社他**：新規連結子会社(東北新和化学(株))の売上貢献により当上期の売上高は増収となったが、急激な円安進行を受け、輸入販売を行うグループ会社の利益率が悪化し、営業利益については減益となった。

創薬支援事業トピックス

●組織再編について

目的	進捗状況
<p>経営資源集約を通じた事業運営の効率化、及び営業の強化を実現するとともに、シームレスなトータルサービスが提供可能な、強い競争力を有する中核会社を設立し、企業価値の最大化を図ります。</p> <p>また、強い経営基盤を武器に、TGR試験に続く高付加価値サービスの導入・開発を強化し、高収益体質の企業体への転換を図ります。</p>	<p>2024年10月1日に(株)新薬リサーチセンターと(株)安評センターとの経営統合手続きは完了し、新会社の経営資源の集約・事業運営の効率化、及び営業強化の実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>なお、既に、グループの強みを活かしたKO/KIマウスを用いた薬理・毒性試験の取り組みについて開始しています。</p>



※(株)トランスジェニックWEBサイト
<https://transgenic.co.jp/>

●取り組みについて

項目	目的	進捗状況	イメージ図
<p>中期発がん性試験※1の導入</p>	<p>発がん性関連領域における需要が高い技術・サービスを他社に先んじて導入し、迅速に市場優位性の確立を目指す。</p>	<p>受託サービスを開始して半年強だが、ここまで、既に3社から試験契約を獲得。</p>	<p>中期発がん性試験標準プロトコル</p> <p>2024年3月より「中期発がん性試験」の受託を開始。本試験前に対象腫瘍に罹患した複数の背景データ取得試験を先行させ、準備期間を短縮し、複数の試験希望委託者に早期にサービス開始を実現。 *中期発がん性試験は、経皮投与局所の発がん性試験の1種として、申請資料に使用されている。</p> <p>【中期発がん性試験実施の利点】 ●動物数の削減 (3Rの理念、Reduction) ●試験期間の短縮 (予備試験を含めて1年～1年半) ●試験物質量の削減 ●試験費用の削減</p> <p>評価方法 ●免疫組織の発生頻度、発生部位、発生時期、発生率 ●免疫組織学的に癌前上皮形成、乳癌、角化棘細胞腫、扁平上皮癌などの発生率、発生頻度および平均発生年齢</p> <p>研究開発内容・目的 Trans Genic Inc. (株)トランスジェニックは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発</p> <p>開発進捗状況 No. 開発工程 進捗 (1) GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製 (2) TGZFモデルの作製 (F2) (3) TGZFモデルの検証 (4) 各種薬剤への反応性の確認</p> <p>TGZFを用いた薬剤スクリーニングサービスの開始</p>
<p>TGZF※2を用いた(株)トランスジェニックとアンジェス(株)との共同研究開発</p>	<p>アンジェス(株)は開発候補の薬剤及び炎症に関連する既存薬剤を投与しTGZFモデルの有用性を検証し、(株)トランスジェニックは確立したTGZFモデルを用いた次世代創薬スクリーニングサービスを展開する。</p>	<p>TGZFの各種製剤への反応性の確認は終了。今後、スクリーニングサービスの受託開始準備を開始。</p>	<p>研究開発内容・目的 Trans Genic Inc. (株)トランスジェニックは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発</p> <p>開発進捗状況 No. 開発工程 進捗 (1) GFPレポータープラスミド及びTransposase発現ベクターの作製 (2) TGZFモデルの作製 (F2) (3) TGZFモデルの検証 (4) 各種薬剤への反応性の確認</p> <p>TGZFを用いた薬剤スクリーニングサービスの開始</p>

※1 長期がん原性試験代替法として推奨され、また厚生労働省の「医薬品のがん原性試験に関するガイドライン」にも「がん原性検出のためのin vivo追加試験」として明記されています。

※2 TGZF(トランスジェニックゼブラフィッシュ)は、ヒトとの疾患ゲノム類似性が約80%等、人への外挿性が高く、スクリーニングが簡便なことから非臨床試験において代替法として需要が高まっており、TGZFモデルは、薬剤に対する反応性の確認に有効であると期待されています。

2025年3月期連結業績予想及び配当予想の修正について

修正内容	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 13,500	百万円 350	百万円 250	百万円 100	円 銭 6.03
今回修正予想(B)	12,500	△110	△180	△210	△12.61
増減額(B-A)	△1,000	△460	△430	△310	

事業区分	修正内容及びその理由
創薬支援事業	<p>売上高予想2,000百万円(△500百万円)、営業利益予想△280百万円(△380百万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶非臨床試験の当上期受注が当初想定よりも大幅に減少(半期で約2億円)したことを受け売上高予想が約3億円減少。主な要因としてTGR試験の受注が半期で約1.5億円想定よりも減少。 ▶遺伝子破壊マウス受託作製についても、主たる顧客であるアカデミアの研究資金原資である大学交付金の縮小を背景に受注金額が当初想定よりも減少し、売上高予想が約0.5億円減少。 ▶臨床試験の当上期受注は前期比大幅増となったが、大部分が来期以降納品であり売上高予想が約1.5億円減少。 ▶新薬リサーチセンターの恵庭研究所における非臨床事業の磐田研究所への移管作業が完了せず、当期まで継続した結果、想定外の費用負担が発生。
投資・コンサルティング事業	<p>売上高予想10,500百万円(△500百万円)、営業利益予想370百万円(△80百万円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶急速な円安進行を受け、輸入販売を営む子会社の粗利率の低下、及び物価高を背景とした消費者の購買意欲後退を受け、Eコマースを営む子会社の売上高減少を予想。
配当予想	<p>期末配当については、上記通期連結業績予想を踏まえ無配とさせていただく予定にしております。</p>
今後の対応	<p>当社グループを取り巻く事業環境は、厳しい状況が継続しております。この厳しい事業環境に適合し、更なる成長を実現すべく、事業拠点、人員配置の見直し等を通じた経営資源の最適配分について早急に検討し、速やかに実行する方針です。</p>

会社概要 2024年10月1日現在

会社名 株式会社トランスジェニックグループ
設立 1998年4月
資本金 50百万円
従業員数 5名(単体) 250名(連結) (2024年9月30日現在)
事業所
本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
東京オフィス 東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員
代表取締役社長 福永 健司 社外取締役 清藤 勉
取締役 北島 俊一 社外取締役 齋藤 穂高
取締役 船橋 泰 常勤監査役 友永 良二
取締役 渡部 一夫 監査役 佐藤 貴夫
取締役 高島 浩二 監査役 本坊 正文
取締役 富田 昭仁

株式の状況 2024年9月30日現在

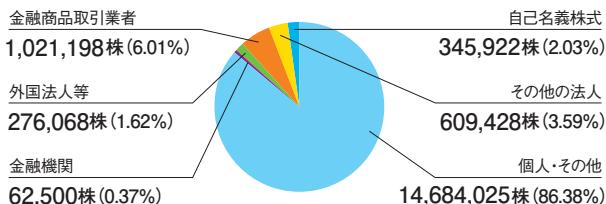
発行可能株式総数 43,630,100株
発行済株式の総数 16,999,141株
株主数 11,923名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SBI証券	441,211	2.64
楽天証券株式会社	202,900	1.21
福永 健司	183,500	1.10
藤井 正樹	173,000	1.03
株式会社ムトウ	160,200	0.96
原田 育生	150,000	0.90
水越 敦	136,900	0.82
山崎 学	120,700	0.72
株式会社リムジンインタナショナル	113,800	0.68
J.P.Morgan Securities plc	111,200	0.66

(注) 1. 自己株式を345,922株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード 2342
上場市場 東京証券取引所 グロース市場
上場年月日 2002年12月10日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報等を電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<https://transgenic-group.co.jp>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております

ir@transgenic-group.co.jp